

# トルストイ没後100年記念市民フォーラム「トルストイと過ごす午後」

## ※ 出演者プロフィール ※



**総合司会: 安村仁志 YASUMURA HITOSHI**

中京大学副学長。国際教養学部教授。日本トルストイ協会副会長。日本ロシア文学会理事。専門はロシア教会史(特に古儀式派)、東方正教会の神学、トルストイなど。主な著書・論文に『西シベリアの歴史と社会』、『東シベリアの歴史と文化』(編著、成文堂)、「トルストイと神」他、訳書にチェトヴェーリコフ『オープンナ修道院』(新世社)、『宣教師ニコライの全日記』(共訳、教文館)他。



**第一部・第三部司会: 木村崇 KIMURA TAKASHI**

京都大学名誉教授。日本ロシア文学会国際交流委員長。専門はレルモントフを中心とするロシア・ロマン主義研究、ロシア貴族文化論など。主な著書・論文に『ロシア学を学ぶ人のために』(共著、世界思想社)、『カフカース: 二つの文明が交差する境界』(共編著、彩流社)、「ロシアのカフカース支配とレルモントフ」、「レフ・トルストイ『イワン・イリイチの死』の〈死〉を巡って」他。



**パネリスト: 川端香里 KAWABATA KAORI**

東京大学名誉教授。日本トルストイ協会会長。川端康成記念会理事長。専門はロシア文学・思想、比較文学。主な著書に『薔薇と十字架: ロシア文学の世界』(青土社)、『トルストイ: 人類の知的遺産52』(講談社)、『ロシア その民族と文化』(講談社学術文庫)他、訳書にバフチン『フランソワ・ラブレの作品と中世・ルネッサンスの民衆文化』(せりか書房)、ザミャチン『われら』(岩波文庫)他。



**パネリスト: イネサ・メジボフスカヤ INESSA MEDZHIBOVSKAYA**

米国ニューヨーク・ニュースクール文学准教授。専門はトルストイを中心とする19世紀ロシア文学・思想史。主な著書・論文に『トルストイと同時代の宗教文化1845-1887』、「21世紀のトルストイ」、「テロルと革命の暴力に対するトルストイの反応」、「シモン・フランクとトルストイの倫理思想との対峙」、「『イワン・イリイチの死』における目的論的苦悶と贖罪」他。



**パネリスト: ナデジュダ・ババエヴァ НАДЕЖДА БАБАЕВА**

ロシア国立トルストイ博物館元上級研究員。専門はトルストイの文学・思想。2009年にロシアで刊行された『トルストイ辞典』に項目執筆多数。主な論文に「トルストイの長編『復活』における語り」、「『復活』のエピグラフ: その創作史」、「1890年代のトルストイの自己認識」他。藤沼貴氏による『戦争と平和』日本語訳(岩波文庫)に協力。



**パネリスト: 佐藤雄亮 SATO YUSUKE**

東京学芸大学講師などを経て、現在モスクワ大学講師。専門はトルストイを中心とする19世紀ロシア文学。ロシアで刊行された『トルストイと同時代人』(2008)、『トルストイ事典』(2009)に項目執筆多数。主な論文に「ピエールの〈水滴でできた地球儀〉の夢」、「『アンナ・カレーニナ』における〈内的関係〉」他。2009年のロシア映画『イサーエフ』(日本未公開)に日本大使役で出演。



**パネリスト: アレクサンドル・アレクサンドロフ АЛЕКСАНДР АЛЕКСАНДРОВ**

ロシア科学アカデミー・ロシア文学研究所研究員。専門は19世紀後半-20世紀初頭のロシア文学、ロシア・ジャーナリズム史。主な著作・論文に『レフ・トルストイの家出と死』、「『ペトログラード新聞』の改革者イズマイロフ(1916-1918)」、「チェーホフの最初の伝記の創造史から」他。

### 作品朗読: 青年座



藤夏子

HUJI NATSU KO



麻生侑里

ASOU YURI



ひがし由貴

HIGASHI YUKI

1954年の旗揚げ以来、創作劇を中心とする上演で日本演劇をリードしてきた青年座は、海外公演にも精力的に取り組んできました。ロシアでも1992年に『宮城野』(ハバロフスク市)、1998年に『盟三五大切』(モスクワ市、オムスク市)などを上演し、大好評を博しています。今回はロシア公演の経験のある三人の女優が、『戦争と平和』、『アンナ・カレーニナ』の名場面や、作家ゴーリキーのトルストイ追憶の文章を朗読します。

### 楽曲演奏: オルケステル・ドレイデル Orkester Dreydel(樋上千寿 Chitoshi HINOUE: Band Master, Clarinet,

Vo. & Lecture / 大橋祐子 Yuuko OOHASHI: Piano / 高橋延吉 Nobuyoshi TAKAHASHI: Drums)



美術史家でリーダーの樋上が、白ロシア(現ベラルーシ)生まれのユダヤ系美術家マルク・シャガール(Marc Chagall, 1887-1985)の作品解釈を進めるうちに、彼がしばしば描くヴァイオリン弾きはどんな音楽を奏でていたのか?という疑問に直面。追究の途上で東欧ユダヤ音楽「クレズマー」と出逢う。2003年にクレズマーを専門に演奏するグループ「オルケステル・ドレイデル」を結成。以来、京都と東京で主催公演を行うほか、宇都宮美術館と千葉市美術館で開催された「シャガール展」関連イベントでの依頼演奏(2007年)や、大阪大、神戸大、同志社大、関西大等の大学や、学会主催のレクチャー・コンサートにも多数出演。これまでに2枚のCDを自主制作。

### 通訳: 吉岡ゆき YOSHIOKA YUKI

訳書にトリーフォノフ『その時、その所』、ペトルシェフスカヤ『時は夜』(いずれも群像社)、ジェーネシキナ『恋をしたら、全部欲しい!』(草思社)他

### 通訳: 三浦みどり MIURA MIDORI

訳書にプリスタフキン『コーカサスの金色の雲』、アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』(いずれも群像社)他。

